見て触れて学ぶもの

事

業の

会教育事業企画検討会が主催 触れることができました。 全や環境にこだわった一面に アーでは町内を巡り、食の安 テーマではありませんが、ツ が実施されました。食育が 知ってもらおう」と6月5日社 「春をめぐるバスツアー」 安平町の魅力をまず町民に

2つの視察先を紹介します 菜の花でまちおこし」

代表 小西克典さん。 くれたのは「北のなのはな会」 の花畑の前で参加者を迎えて 自宅周りに広がる一面の菜

わいながら、会が取組んでい きれいな花を目や香りで味



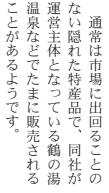
半は、 く参加者の大 な素敵な風景 地元にこ



です。 P 0 いることを知らなかったよう 花を原料とした「はちみつ」 「なたね油」が販売されて

明されました。 環境面の取組みについても説 エネルギーとしての活用など、 とや会が目指しているバイオ がらの製法で製造しているこ 食の安心安全を考え、 昔な

察することができました。 された商品の「畑のスイーツ」 ハチ箱が置かれてあり、 (菜の花はちみつ) の素を観 場所を移した菜の花畑には 紹介



さくらんぼが振舞われました。 実ったハウスを見学した後、 高級品種とも言われる粒が



「隠れた特産品が…」

今回の視察先である「早来

4 地産地消をもつと考える

はなく、 ること』を通じて生産の努力 ながる形 費することだけが地産地消で 地域のものを地域の方が消 生産者と消費者がつ 『顔が見え、 話をす

この工場の敷地内には大き

「さくらんぼ」や「ぶど

(ビニールハウス) が

図

몗

窗

ることを目的としています。 や苦労、 今では町内でも当たり前と 食の安心安全に触

らしながら始めた「はやこい 旧早来町時代に行政などが 生産者たちが意思と工夫を凝 きっかけをつくり、 なった農産物直売所ですが、 の例があります。 賛同した



ら消費者の手へ。 た作物を、 精魂こめて丹念に作りあげ 直接生産者の手か

とで、 今では給食センターが安平町 給食へ提供する道をつくり、 場農産物の良さを、当時ほと のポイントなどを説明するこ んど行われていなかった学校 が消え、やがてメンバーは地 アピールや調理方法、 生産者ならではの農産物の 消費者との見えない壁 育て方

> りました。 ニューを増やすきっかけとな 0 食材や加工品を使ったメ

力や工夫が含まれています。 さを子供たちに伝える」こと 件がありますが、季節に合わ には生産者や栄養士などの努 せ献立を組み「地元のおいし 給食食材の納入には量や品 価格など意外と多くの条



6月献立の主な町内産食材 アンガス牛肉・黒千石豆(黒大豆) 油揚げ・生揚げなど

豚のぎょうざなど町内の生産物や加